

今月号は裏表紙にも市政トピックスの記事をカラーで掲載しています！

総務課

## 庄原市の施策が評価される

地方自治法施行70周年記念 総務大臣表彰

庄原市は11月20日、地方自治法施行70周年を記念して総務大臣表彰(団体表彰)を受けました。この表彰は、自らの創意工夫により、優れた施策を実施し、地方自治の充実発展に寄与した市町村に対して行われます。

これまでの自治振興(区)の組織づくりの推進、まちづくり市民グループと連携した特色ある地域づくりの推進、「比婆いざなみ街道」など広域化した市内各地域の特色を生かした取り組み、そして広島県内陸部振興対策協議会事務局としての取り組みなどが評価されました。



市民生活課

## あきらめない気持ちを

庄原市人権講演会



講演する辻井いつ子さん

12月7日、庄原市民会館で庄原市人権講演会を開催しました。

ピアニスト辻井伸行さんの母、辻井いつ子さんが「明るく、楽しく、そして、あきらめない生き方」と題して講演。辻井さんは、生後まもなく全盲と診断された伸行さんを育てる中で、実践してきたことや感じたこと、そして、伸行さんがヴァン・クライバーン国際コンクール(2009年)で優勝するまでの過程について、途中DVDの上映を交えながら話しました。

何をすることも「前例がないからと断られたが、前例がないなら作ればいいと思っただけ」と言う辻井さん。参加者は、あきらめない強い思いを持つことの大切さを学びました。

来場者アンケートでは、「障害があることであきらめたりせず、可能性を信じて伸ばす大切さを教わった」「今日の日を大切にすること...とても素敵な言葉を教えてもらった」など多くの感想が寄せられました。

社会福祉課

## パニック症10年間の闘病から克服まで

平成29年度障害者理解促進講演会

この講演会では、女優の大場久美子さんが「パニック症10年間の闘病から克服まで」差別や偏見のない人権を尊重した社会づくりの大切さ」と題して、パニック症についてや闘病体験、克服に向けて実践したことについて講演しました。

講演は、童謡「うさぎとかめ」を合唱しながらの音楽健康体操なども交えながら、最後までなかなか雰囲気で行われませんでした。

参加者からは、「元気をもらえた」「今日の話を知人にも伝えたい」などの声が聞かれました。



音楽健康体操を交えながら講演が行われた

高野支所

## “おいしい”庄原の立ち寄りスポット

「道の駅たかの」来場者200万人達成記念セレモニー



杉谷さんを囲んで記念撮影

12月10日、「道の駅たかの」は、オープンから約4年8カ月で来場者が200万人に到達し、記念セレモニーが行われました。

200万人目の来場者(レジ通過者)となったのは、友人グループで訪れた出雲市の杉谷純子(すぎたか)さんで、「お米や野菜など食べ物がおいしく、10回以上立ち寄っている。雪が多く降る時は来れないかもしれないが、また来たい」と喜んでいました。

駅長の根波裕治(ねなひろし)さんは「お客様に、また来たいと思っただけでいい。これからも努力したい。また市の北の玄関口としてインフォメーション機能も強化していきたい」と話していました。

今月号は裏表紙にも市政トピックスの記事をカラーで掲載しています！

いちばんづくり課

移住者目線の地域紹介に期待

西城地域で活動する「移住定住コンシェルジュ」を新たに1人配置



寺元企画振興部長(左)から任命を受ける宮本さん(右)

市は、12月1日付で定住支援員(移住定住コンシェルジュ)を新たに1人配置しました。任命を受けた宮本さんは、神奈川県から1ターンスし、西城地域での暮らしを楽しみながら、これまで西城自治振興区で都市部との交流事業などに携わってきました。宮本さんは「私自身が移住者なので、他県から来る方が不安に思う事など、自分の体験から話ができると思います」と話していました。市は今後もこの取り組みを継続し、移住希望者が安心して移住できる環境づくりに努めていきます。

生涯学習課

フットサルの基本技術を学ぶ

庄原市レベルアップスポーツ教室を開催



基本動作の練習

11月25日、恒例の「庄原市レベルアップスポーツ教室フットサル教室」を、かんの郷庄原フットサルコートで開催しました。講師にミズノフットサルクラブの上野さんら3人を迎え、参加した市内の小学生12人は、基本動作の練習やミニゲームなどを行い、爽やかな汗を流しました。参加した迫啓仁くん(西城小3年)は、「いつもするサッカーよりも小さいボールを使って、いつもと違うことを習って勉強になりました」と話していました。

生涯学習課

市民ひとり1スポーツをめざして

ニュースポーツ体験会を開催



目標に向けて球を投げる児童(ヘタンク)

11月17日、誰でも気軽に取り組めることを目的に考案された「ニュースポーツ」の体験会を開催し、八幡小学校全児童22人が参加しました。講師に、庄原さくらスポーツクラブの皆さんを招き、特殊カーペットの上でストーンを滑らすように投げ円形の目標地点により近づける「ユニカール」と、球を投げ合って相手の球より目標に近づける「ペタンク」種目を体験しました。児童は熱心に指導を受けながら、楽しい時間を過ごしました。今後、「市民ひとり1スポーツ」の実現を目指して、ニュースポーツの普及に取り組みますので、各団体などで体験会の要望がありましたら、生涯学習課スポーツ振興係(☎0824・73・1196)までお問い合わせください。

比和支所

そば打ちで交流

一般介護予防事業「料理教室」



そばを打つ参加者

11月28日、比和自治振興センターで一般介護予防事業「男性いきいき講座」と「元気づくりセミナー(栄養編)」比和地域・福田地域」の交流会を行いました。日頃は、それぞれの事業で調理や栄養・健康に関する学習をしています。当日は男性11人、女性5人合計16人と大勢の参加で、旧友の久々の再会もあり、にぎやかで楽しい雰囲気でした。今回は男性グループのメンバーを講師に、比和産のそば粉を使って、そば打ちで交流しました。参加者は、打ちたてのそばで作った「ざるそば」と、地元野菜を使った「豚汁」、「そばの実せんべい」や「そばがき」のデザートをみんなで一緒に食べ、地元の食材の味を満喫していました。

商工観光課

実践を学ぶ

民泊受け入れ家庭の研修会



はじめに生徒を玄関で迎えるところから研修した



研修で藤澤さん(写真左端)から説明を受ける民泊家庭

市は、昨年度から民泊による体験型修学旅行の受け入れに取り組んでいます。民泊の実践的な受け入れ方法を学ぶため、12月8日、西城地域と口和地域の民泊受け入れ家庭を会場に現地研修会を実施しました。研修会では、全国で民泊の指導に当たっている株式会社育企画の藤澤安良さんを講師に迎え、実際に生徒を家に迎えた際の受け入れの進め方について学習しました。藤澤さんは、家にある野菜や周りの植物などを使って、野菜の重さを当てさせるゲームや植物の名前の由来について教えるなど、家の中でもできる体験を紹介し、「都会の生徒は人や自然と触れ合う機会が非常に少ない。野菜がどこからどのように採れるのか、農機具の使い方、植物の種類や名前など身近なものの説明をしてあげるだけで良い経験となる。雪が積もっていたとしても、長靴を履いて雪の上を歩くだけでも生徒には立派な体験になる」と民泊受け入れに関するアドバイスをしました。研修会に参加した民泊受け入れ家庭からは「冬は雪を外に出られないし、生徒に何をさせたら良いか不安だったが、家の中でもできることをさせれば良いということが分かった」「畑でなくても、生徒に野菜の名前

や重さを考えさせたりすることなら家の中でも簡単にできる」などの感想があり、1月に予定されている冬季の民泊に対する不安が解消されたようでした。民泊受け入れ家庭を募集中心！市では民泊体験を受け入れていただける家庭を募集しています。子どもたちと一緒に心温まる体験をしてみませんか？【民泊登録の申し込み・問い合わせ】庄原市さやま体験交流協議会事務局(庄原市観光協会) ☎0824・75・0173

商工観光課

ご当地メニューで「おいしい庄原」をPR

「新ご当地グルメ」開発試食会



やさい寿司

庄原ベジパフェ

庄原観光いちばん協議会は、外国人観光客をはじめとする来訪者が「わざわざ食べに行きたい」と思えるメニューなど、地元農畜産物を使った庄原ならではの当地グルメを開発するため、市民ワークショップや料理人ワークショップを開催してきました。そのワークショップでの意見を基に、「庄原やさい寿司御膳」「比婆牛丼」「庄原ベジパフェ」の3つをご当地グルメとして開発していくこととなり、12月4日に料理人ワークショップの参加者による開発試食会を開催しました。試食会では、ご当地グルメの定義や値段設定などの最終確認を行いました。今後、協議会では、新ご当地グルメのプロモーションを積極的に行い、「おいしい庄原」をアピールしていきます。現在、新ご当地グルメ開発の参加店舗を募集しています。試作費用の補助などもありますので、興味のある事業者はぜひ協議会(事務局・商工観光課 ☎0824・73・1179)までご連絡ください。